

■**円珍(智証大師)**
えんちん
瘦雲集・・・814=

最澄の創始した天台宗を円仁に続いて興隆させ、園城寺を復興して、寺門派の宗祖となった。

讃岐国那珂郡で生まれる。母は佐伯氏の女と伝え、空海の姪に当るといふ。

嵯峨上皇・・・823=9歳：この頃には「毛詩」「論語」「漢書」「文選」を学んだ。

経国集・・・827=13歳：平安京に上る。

・・・828=14歳：**叔父の仁徳に連れられて比叡山に登り、時の座主であった義真に師事。**
義真は、「法華経」「金光明経」「大日経」などを教え読ませた。

・・・832=18歳：

・・・833=19歳：**天台宗の年分度者として得度し、比叡山戒壇院で菩薩戒を受け、最澄の決めた制規にのっとり、以後12年の籠山修行に入る。**

やがて、**真言学頭という職務から入唐を決意し、**

・・・840=26歳：比叡明神の廟に参って、**入唐求法を祈願。**

・・・841=27歳：

承和の変・・・842=28歳：

円仁帰国・・・847=33歳：**帰朝した円仁から「大日経随行儀軌」を受法、**

円仁の成果の前に入唐を躊躇するうち、

文徳天皇即位 850=36歳：**仁明天皇が死去して文徳天皇が即位、*藤原良房の覇権が確立すると、早速入唐求法の希望を奏上、**

・・・851=37歳：**良房・良相の全面的な資金援助を得て、大宰府に向かい、**

円珍入唐・・・852=38歳：**唐商欽良暉の船で渡海、福州に上陸。**

福州で般若但羅・存式、温州で宗本らに学び、天台山にいたり巡拝。物外に学んだ。さらに長安へ向かい、越州で良諤に学び、長安では法全(はっせん)から、胎藏界・金剛界・蘇悉地の3部大法を受け、智慧輪にも学んだ。長安から洛陽を経て越州の良諤を再び訪れ、

・・・856=42歳：天台山に帰った。天台山では最澄発願の日本国大徳僧院を復興。

人民摂政の実 858=44歳：**帰国の途につき、唐商李延孝の船で大宰府着。平安京に帰り、**

・・・859=45歳：***「求法目錄」を朝廷に提出し、両界の曼荼羅を献上。**

のち清和天皇は円珍将来の典籍・道具などを下賜し、円珍はこれを別当職を務めることになった園城寺に収蔵した。以後入唐の成果を内外に発表することが活発であった。一方、藤原朝臣良房の庇護も厚く、

富士山噴火・864=50歳：宮中仁寿殿で大悲胎藏の灌頂を修し、皇太后明子の護持僧となるなど、朝廷との結びつきが濃くなった。

応天門の変・866=52歳：応天門の変に当って良房に呼ばれ、冷然院に入って宝祚の長久を祈る。円珍の祖父道麻呂・父宅成らが和氣公の氏姓を賜ったため、和氣氏となる。

・・・868=54歳：***勅により第5世天台座主となり、**

藤原良房没・872=58歳：良房が死去してようやく平安京を離れ、

天台密教の完成に尽くし、近江国の園城寺鐵(三井寺)を復興して延暦寺の別院とし、後に門弟たちがこの寺に拠って延暦寺の山門派と対抗して寺門派を形成、

・・・877=63歳：

・・・883=69歳：勅により法眼和尚位を授けられて宮中の祈薦を行ない、

・・・886=72歳：**「大日経」業と「一字頂輪王経」業年分度者として認められ、**

宇多天皇即位 887=73歳：

基経関白辞任 890=76歳：**一山の推薦で僧綱の職位少僧都に就き、**

道真蔵人頭・891=77歳：***臨終が近いことを告げ、くわしく後事を遺制して、所伝の密教も全て有力な弟子に伝え、端座して入滅。後に智証大師の号が贈られた。**